

1. 測定検査等事業

1) 微生物グループ

(1) 感染症発生動向調査（患者情報）

感染症発生動向調査は、感染症の発生状況を把握するために行われている調査である。「感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下、感染症法）の第三章「感染症に関する情報の収集と公表」の第12条から第16条に基づいて実施されており、詳細については厚生労働省の「感染症発生動向調査事業実施要綱」に定められている。これを受けて、和歌山県では「和歌山県感染症発生動向調査事業実施要綱」を策定している。対象となる感染症は、感染症法施行令および施行規則の一部改正により113疾病（一～五類感染症、新型インフルエンザ等感染症、感染症法14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症）となった。当センターでは感染症の患者報告数集計とその解析を担当している。

表1-1. 疾病別保健所別報告数（2023年）

感染症名	和歌山市	海南	岩出	橋本	湯浅	御坊	田辺	新宮	新宮 (串本支所)	県計
二類 結核	37	8	13	8	8	14	20	4	7	119
三類 腸管出血性大腸菌感染症	15	0	2	2	0	0	2	0	0	21
重症熱性血小板減少症候群	1	0	0	0	1	0	1	0	0	3
つつが虫病	0	0	0	0	0	0	13	0	0	13
四類 日本紅斑熱	8	0	11	7	0	1	2	6	7	42
レジオネラ症	3	0	4	3	0	1	5	1	0	17
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
アメーバ赤痢	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
ウイルス性肝炎	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5	1	1	4	0	1	1	0	0	13
急性脳炎	2	0	0	0	0	0	1	0	0	3
クロイツフェルト・ヤコブ病	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	0	0	2	0	0	0	0	0	5
後天性免疫不全症候群	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
五類 侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
侵襲性肺炎球菌感染症	7	0	0	0	0	2	1	0	0	10
水痘（入院例）	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2
梅毒	38	0	9	2	1	2	11	1	0	64
播種性クリプトコックス症	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
破傷風	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	3	0	0	2	0	0	0	0	0	5
百日咳	4	0	0	0	0	0	5	2	0	11
計	16454	2908	6239	4191	3543	3015	5679	3189		45218
計	16591	2919	6279	4222	3553	3036	5745	3220	14	45579
五類 インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	(15) 6818	(3) 1312	(6) 2155	(6) 1995	(4) 879	(3) 1047	(7) 2318	(3) 1248	(2) 60	(49) 17832
新型コロナウイルス感染症※2)	(15) 3047	(3) 2396	(5) 1102	(6) 1662	(4) 810	(3) 1007	(7) 1695	(3) 788	(2) 117	(48) 12624
RSウイルス感染症	(9) 601	(2) 105	(4) 245	(4) 170	(2) 151	(2) 122	(3) 258	(2) 482	(1) 0	(29) 2134
咽頭結膜熱	(9) 665	(2) 99	(4) 214	(4) 58	(2) 8	(2) 79	(3) 327	(2) 30	(1) 0	(29) 1480
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	(9) 741	(2) 92	(4) 203	(4) 290	(2) 33	(2) 97	(3) 141	(2) 78	(1) 0	(29) 1675
感染性胃腸炎	(9) 3667	(2) 319	(4) 627	(4) 234	(2) 109	(2) 75	(3) 79	(2) 445	(1) 0	(29) 5555
水痘	(9) 50	(2) 9	(4) 5	(4) 10	(2) 8	(2) 1	(3) 14	(2) 4	(1) 0	(29) 101
手足口病	(9) 111	(2) 17	(4) 49	(4) 15	(2) 29	(2) 22	(3) 14	(2) 57	(1) 0	(29) 314
伝染性紅斑	(9) 3	(2) 2	(4) 2	(4) 0	(2) 0	(2) 0	(3) 2	(2) 1	(1) 0	(29) 10
突発性発疹	(9) 168	(2) 7	(4) 75	(4) 12	(2) 19	(2) 8	(3) 31	(2) 33	(1) 0	(29) 353
ヘルパンギーナ	(9) 741	(2) 173	(4) 241	(4) 90	(2) 215	(2) 117	(3) 310	(2) 162	(1) 0	(29) 2049
流行性耳下腺炎	(9) 32	(2) 2	(4) 7	(4) 6	(2) 7	(2) 0	(3) 4	(2) 8	(1) 0	(29) 66
急性出血性結膜炎	(3) 1						(1) 6			(4) 7
流行性角結膜炎	(3) 72						(1) 18			(4) 90
細菌性髄膜炎	(3) 4		(1) 0	(2) 0	(1) 0	(1) 0	(2) 0	(1) 0		(11) 4
無菌性髄膜炎	(3) 16		(1) 1	(2) 3	(1) 1	(1) 0	(2) 1	(1) 0		(11) 22
マイコプラズマ肺炎	(3) 12		(1) 1	(2) 2	(1) 0	(1) 0	(2) 1	(1) 1		(11) 17
クラミジア肺炎(オウム病を除く。)	(3) 0		(1) 0	(2) 1	(1) 0	(1) 0	(2) 0	(1) 0		(11) 1
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	(3) 4		(1) 0	(2) 0	(1) 0	(1) 1	(2) 0	(1) 0		(11) 5
計	16753	4533	4927	4548	2269	2576	5219	3337	177	44339
五類 性器クラミジア感染症	(4) 135		(1) 10	(1) 20			(1) 36			(7) 201
性器ヘルペスウイルス感染症	(4) 58		(1) 17	(1) 1			(1) 23			(7) 99
尖圭コンジローマ	(4) 52		(1) 2	(1) 6			(1) 11			(7) 71
淋菌感染症	(4) 63		(1) 2	(1) 7			(1) 7			(7) 79
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	(3) 134		(1) 18	(2) 9	(1) 0	(1) 26	(2) 28	(1) 12		(11) 227
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	(3) 6		(1) 0	(2) 0	(1) 0	(1) 0	(2) 0	(1) 0		(11) 6
薬剤耐性緑膿菌感染症	(3) 1		(1) 1	(2) 0	(1) 0	(1) 0	(2) 3	(1) 0		(11) 5
計	449		50	43	0	26	108	12		688

()は定点医療機関数

※1) 居住地保健所別感染者数, 2023年5月7日分までの合計。串本支所分は新宮を含む。

※2) 2023年5月8日以降の集計。

2023年（1～12月）の感染症発生動向調査による保健所別報告数は表1-1のとおりであった。2023年は、二類感染症1疾病、三類感染症1疾病、四類感染症5疾病、五類感染症（全数把握対象）16疾病、新型インフルエンザ等感染症1疾病、五類感染症（定点把握対象）25疾病、計49疾病の報告があった。二類から五類（全数把握対象）感染症の患者報告数は、二類感染症119名（結核のみ）、三類感染症21名（腸管出血性大腸菌感染症のみ）、四類感染症77名（重症熱性血小板減少症候群3名、つつが虫病13名、日本紅斑熱42名、レジオネラ症17名、レプトスピラ症2名）、五類感染症（全数把握対象）129名（アメーバ赤痢3名、ウイルス性肝炎2名、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症13名、急性脳炎3名、クロイツフェルト・ヤコブ病2名、劇症型溶血性レンサ球菌感染症5名、後天性免疫不全症候群3名、侵襲性インフルエンザ菌感染症2名、侵襲性髄膜炎菌感染症2名、侵襲性肺炎球菌感染症10名、水痘（入院例）2名、梅毒64名、播種性クリプトコックス症1名、破傷風1名、バンコマイシン耐性腸球菌感染症5名、百日咳11名）であった。二類から五類（全数把握対象）感染症の報告数合計は、2022年は301名であったが、2023年は346名に増加した。なお、2023年5月7日まで新型インフルエンザ等感染症に位置づけられていた新型コロナウイルス感染症については、45,218名の患者が報告された。

五類感染症（定点把握・週報）については、計44,339名の患者報告があり、2022年（7,434名）より増加した。なお、2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症が、五類感染症（定点把握・週報）の対象疾患に追加された。五類感染症（定点把握・月報）については、計688名の患者報告があり、2022年（712名）から減少した。STD 定点把握では性器クラミジア感染症、基幹定点把握ではメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の患者報告数が最も多かった。

(2)行政検査

2023年度に実施した行政検査の内容および検査数は表1-2のとおりであった。

表1-2. 行政検査の内容および検査数

依頼者	内 容	検 体 数	延検査数
健康推進課	感染症発生動向調査事業		
	病原体の検出	998	1245
	腸管出血性大腸菌感染症の検査	17	17
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の検査	14	14
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症の検査	23	23
	つつが虫病及び日本紅斑熱診断検査	103	161
	感染症流行予測調査事業		
	ポリオ感染源調査（環境水からのウイルス分離）	12	72
食品・生活衛生課	食中毒（疑いを含む）発生に伴う病原体の検査	181	414
	畜水産物中の残留抗生物質の検査	120	120
	流通食品の腸管出血性大腸菌 O26・O103・O111・O121・O145・O157の検査	40	240
	流通食品の腸炎ピブリオの検査	20	20
	流通食品のサルモネラ属菌の検査	40	40
	流通食品のカンピロバクターの検査	20	20
	生食用かきの成分規格試験および汚染実態調査	10	40
	生めん類の汚染実態調査	10	30
	アイスクリーム類の汚染実態調査	40	80
	浅漬の汚染実態調査	10	20
	ナチュラルチーズ及びサラダのリステリア菌検査	10	10
	食鳥処理場の汚染実態調査	80	80
	井戸水の検査	22	44
	浴槽水等のレジオネラ属菌の検査	31	31
	ネコの抗SFTSウイルス抗体保有調査	215	215
	環境管理課	公共用水域の水質調査	84
計		2100	3020

a) 感染症発生動向調査事業

(a) 病原ウイルスの検出 (表 1-3)

県内のウイルス感染症の動向を把握するため、医療機関等で採取された患者の臨床材料 998 検体を用いてウイルスの検出を行った。671 検体から計 13 種類のウイルスを検出した。

表 1-3. 感染症発生動向調査病原体検出状況 (R5 年度, 受付月別)

	R5年										R6年			合 計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
麻疹							3					3	6	
Measles virus													0	
風疹													0	
Rubella virus													0	
重症熱性血小板減少症候群	3	1	1	2	17	3	1			5		3	36	
SFTS virus	1		1										2	
急性脳炎	10												10	
Enterovirus														
感染性胃腸炎	18	10							6	23	16	43	116	
Noro virus GI													0	
Noro virus GII	12	9							4	20	14	39	98	
Sapo virus													0	
無菌性髄膜炎			1		1		2	3		2	1		10	
Enterovirus (CV-B5)								2					2	
ヘルパンギーナ					2		1						3	
Enterovirus (CV-B5)					2								2	
インフルエンザ	8	1	1	3	3	5	14	10	11	9	6	7	78	
Influenza virus A(H1)pdm				1	3	1	5	2	4	1	1	1	16	
Influenza virus A(H3)	7		1	2	3	4	8	5	6	5	2		43	
Influenza virus B(Yamagata)														
Influenza virus B(Victoria)								2	1	3	3	6	15	
新型コロナウイルス感染症	178	16	52	95	53	64	47	38	44	35	55	36	713	
SARS-CoV-2	7	15	50	49	53	62	43	38	43	35	54	34	483	
その他	5		4	5			4	1				7	26	
RS virus												1	1	
human metapneumovirus												3	3	
Enterovirus (EV-A71)						4							4	
Enterovirus (CV-B4)												1	1	
Rhino virus												1	1	
合 計	222	28	59	105	76	76	69	51	61	74	78	99	998	
検 体 数	27	24	52	52	58	71	56	49	58	64	74	86	671	
病原体検出数														

(b) 新型コロナウイルスのゲノム解析 (表 1-4)

医療機関等で採取された SARS-CoV-2 陽性検体の一部について次世代シーケンサーを用いたゲノム解析を行った。結果は次のとおりであった。

表1-4. 新型コロナウイルスゲノム解析結果 (R5年度, 検体採取月別)

lineage	採取月												合計
	R5年	R6年											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
XBB.1			1										1
XBB.1.5	2		3										5
XBB.1.5.7			1										1
XBB.1.5.13		1											1
XBB.1.5.17				1									1
XBB.1.5.30			1										1
XBB.1.5.41			1										1
XBB.1.9.1	2	2	1	4									9
XBB.1.9.2			1	1									2
XBB.1.16	1	8	6	6	7								28
XBB.1.16.1		1	1	2									4
XBB.1.16.2			3										3
XBB.1.16.7					1								1
XBB.1.16.11						1				1			2
XBB.1.16.17								1					1
XBB.1.16.21					2								2
XBB.1.22			1	1									2
XBB.1.22.1					1		2						3
XBB.1.22.3					1								1
XBB.1.42					1								1
XBB.1.42.2					1	2	1				1		5
XBB.2.3								1					1
XBB.2.3.1			1										1
XBB.2.3.2		1											1
XBB.2.3.3		1	3	2	1								7
XBB.2.3.5		1											1
XBB.2.3.8			1	1									2
XBC.1.3.1									5	1			6
XBL.3				1									1
XCM								1					1
XCT.1										2			2
XDD										1			1
XDQ												5	5
BA.2.86.1									1	11	6	7	25

BA. 2. 86. 3											1		1
BF. 5		2											2
BF. 11	1												1
FU. 1		1											1
FK. 1. 1		2		2									4
FK. 1. 3. 2				1	2		2						5
EG. 1					4								4
EG. 1. 2			3										3
EG. 2				1									1
EG. 5. 1			2	3	2	1	5	4					17
EG. 5. 1. 1				2	7	5	6	3	2				25
EG. 5. 1. 2						1							1
EG. 5. 1. 3						1							1
EG. 5. 1. 4						1			4				5
EG. 5. 1. 6								1					1
FY. 2				3									3
FY. 3			5		2		1						8
FY. 3. 1					1	2							3
FY. 5						2							2
FY. 6						1	1						2
FY. 8									1				1
FL. 2			3	2									5
FL. 2. 3				1									1
FL. 4			7	1									8
FL. 5				1									1
FL. 10				1									1
FL. 10. 1					5	1		3					9
FL. 12			1										1
FL. 14					1								1
FL. 15					2								2
FL. 24					3								3
BN. 1. 2				1									1
HF. 1				6	9	12	1						28
HH. 1. 1					1								1
HK. 3							3	8	14	6			31
HK. 3. 1									1	2			3
HK. 3. 2								2					2

HK. 3. 5										1			1
HK. 3. 13										1			1
HK. 6								1					1
HK. 20. 1									1				1
HK. 23. 1										1			1
HV. 1								1	3	3			7
HV. 1. 6. 1										1	1		2
HW. 1							1						1
GJ. 1. 2				2									2
GJ. 3				1	1								2
GK. 1							1						1
GK. 1. 1							3			1			4
JJ. 1							1						1
JD. 1. 1								3	3	1			7
JG. 3										1	1		2
JN. 1								1	2	7	9	5	24
JN. 1. 1										2	4		6
JN. 1. 4										1	3	5	9
JN. 1. 4. 2											1		1
JN. 1. 4. 3											1		1
JN. 1. 4. 5												1	1
JN. 1. 5											1		1
JN. 1. 7											1		1
JN. 1. 18												1	1
JN. 2										1		2	3
JN. 10									1		1	1	3
JR. 1. 1									1				1
KV. 2												1	1
DV. 6. 2					1								1
合 計	6	20	46	47	56	30	28	30	40	44	31	28	406

(c) 病原細菌の検出

医療機関等で検出された腸管出血性大腸菌の菌株（疑いを含む）および患者・接触者等の便検体 17 検体について検査を行った結果、腸管出血性大腸菌 O157:H7 (VT1・VT2) を 5 例、O157:H7 (VT2) 1 例、O157:H- (VT1・VT2) 1 例、O157:H- (VT2) 1 例、O91:H- (VT1) 1 例および O103:Hg2 (VT1) 1 例を確認した。

(d) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の検査

CRE 感染症の届出があった患者から分離された菌株 14 検体について検査を行った結果、カルバペネマーゼ遺伝子および基質拡張型 β -ラクタマーゼ（ESBL）遺伝子保有菌株を 12 例確認した。

(e) つつが虫病および日本紅斑熱診断検査（表 1-5）

医療機関から依頼のあった症例について、検査診断を目的として遺伝子増幅法、間接蛍光抗体法による検査を行った。日本紅斑熱 34 例、つつが虫病 10 例を確認した。

表 1-5. つつが虫病および日本紅斑熱検査状況

疾病名	保健所	検査症例数	陽性症例数
日本紅斑熱	和歌山市保健所	2	1
	岩出保健所	20	11
	橋本保健所	9	7
	海南保健所	3	0
	御坊保健所	1	1
	湯浅保健所	2	0
	田辺保健所	14	2
	新宮保健所串本支所	13	7
	新宮保健所	6	5
	合計	70	34
つつが虫病	和歌山市保健所	0	0
	岩出保健所	4	0
	橋本保健所	8	0
	海南保健所	1	0
	御坊保健所	0	0
	湯浅保健所	1	0
	田辺保健所	19	10
	新宮保健所串本支所	0	0
	新宮保健所	0	0
	合計	33	10

b) 感染症流行予測調査事業（表 1-6）

ポリオウイルスの侵入監視を目的として環境水からのウイルス分離を試みた。毎月 1 回、伊都浄化センターにおいて流入下水を採取し調査を行った結果、ポリオウイルスは検出されなかった。他のウイルス検出結果については表 1-6 のとおりであった。

表 1-6. ポリオ感染源調査ウイルス分離結果（環境水からの分離）

	R5年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6年 1月	2月	3月
Adenovirus 2	○					○						
Adenovirus 3					○				○	○	○	
Adenovirus 5		○										
Adenovirus 6								○				
Adenovirus 11		○		○		○						
Adenovirus NT		○		○				○	○	○	○	○
Coxsackievirus B4			○	○	○			○				
Coxsackievirus B5				○	○	○		○				
Coxsackievirus A4			○									
Coxsackievirus A10				○								
Reovirus										○		

注) ○印は分離されたウイルス

※NT: not typed

c) 食中毒発生に伴う病原体の検査（表 1-7）

食中毒事例 4 事例について検査を実施した。検査結果から、サルモネラ属菌 1 事例、ウエルシュ菌 1 事例、黄色ブドウ球菌 1 事例、ノロウイルス GII 1 事例を原因病原体と特定した。

表 1-7. 食中毒（疑い）発生事例

番号	保健所	原因施設	原因病原体	依頼日	検体種別	検査項目	陽性数/検体数	備考
1	田辺	飲食店	サルモネラ属菌	R5. 8. 28	便（調理従事者）	カンピロバクター	0/12	
				R5. 8. 31	拭き取り	サルモネラ属菌	0/26	
				R5. 8. 31	菌株（喫食者）	サルモネラ属菌	4/4	
2	田辺	飲食店	ウエルシュ菌	R5. 11. 7	便（喫食者）	ウエルシュ菌, セレウス菌	5/5	
				R5. 11. 8	便（喫食者）	ウエルシュ菌, セレウス菌	3/3	
				R5. 11. 8	便（従事者）	ウエルシュ菌, セレウス菌	0/6	
				R5. 11. 10	便（喫食者）	ウエルシュ菌	2/2	
				R5. 11. 14	菌株（喫食者）	黄色ブドウ球菌	2/2	
				R5. 12. 12	便（喫食者）	ウエルシュ菌	0/20	
3	田辺	飲食店	黄色ブドウ球菌	R6. 2. 21	便（喫食者）	ウエルシュ菌 セレウス菌, 黄色ブドウ球菌	6/7	
				R6. 2. 21	食品	ウエルシュ菌 セレウス菌, 黄色ブドウ球菌	1/1	
				R6. 2. 21	便（従事者）	ウエルシュ菌, セレウス菌	0/12	
				R6. 2. 21	拭き取り	ウエルシュ菌, セレウス菌	0/13	
				R6. 2. 28	菌株（喫食者）	黄色ブドウ球菌	2/5	
				R6. 2. 28	菌株（従事者）	黄色ブドウ球菌	3/7	
4	海南	飲食店	ノロウイルス GII	R6. 3. 8	便（喫食者）	ノロウイルス サポウイルス, カンピロバクター	4/5	
				R6. 3. 8	便（従事者）	ノロウイルス サポウイルス, カンピロバクター	2/2	
				R6. 3. 8	拭き取り	ノロウイルス サポウイルス, カンピロバクター	0/10	
				R6. 3. 12	使用水	ノロウイルス	0/1	

d) 食品衛生監視指導計画に係る食品等の検査

県内で産出および流通する食品等の安全を確保するために定めた「和歌山県食品衛生監視指導計画」に基づき、以下の検査を実施した。

(a) 畜水産物中の残留抗生物質の検査

食肉，鶏卵，養殖魚介類および蜂蜜，計 120 検体の検査を行った結果，すべてにおいて抗生物質（テトラサイクリン系，マクロライド系，アミノグリコシド系）は検出されなかった。

(b) 流通食品の腸管出血性大腸菌（O26・O103・O111・O121・O145 およびO157）汚染実態検査

牛レバー，牛肉臓（胃，腸），そうざい，カット野菜，サラダ，計 40 検体の検査を行った結果，すべてにおいて腸管出血性大腸菌（O26・O103・O111・O121・O145 およびO157）は検出されなかった。

(c) 生食用鮮魚介類の成分規格検査

生食用鮮魚介類計 20 検体の成分規格検査（腸炎ビブリオ）を行った結果，すべて成分規格に適合した。

(d) 流通食品のサルモネラ属菌汚染実態調査

食肉，鶏卵および生洋菓子，計 40 検体の検査を行った結果，3 検体（いずれも鶏肉）からサルモネラ属菌が検出された。

(e) 流通食品のカンピロバクター汚染実態検査

鶏肉 20 検体の検査を行った結果，13 検体からカンピロバクター・ジェジュニが，1 検体からカンピロバクター・コリが検出された。

(f) 生食用かきの成分規格検査およびノロウイルス汚染実態調査

10 検体について成分規格検査（細菌数，大腸菌，腸炎ビブリオ），およびノロウイルスの検査を行った結果，すべて成分規格の基準を満たしたが，2 検体からノロウイルス G I が検出された。

(g) 生めん類の汚染実態調査

10 検体について生菌数，大腸菌（ゆでめんの場合は大腸菌群），黄色ブドウ球菌の検査を行った結果，生菌数は生めん 3,000,000cfu/g 以下，ゆでめん 100,000cfu/g 以下であり，大腸菌および黄色ブドウ球菌は検出されなかった。

(h) アイスクリーム類および氷菓の汚染実態調査

40 検体について細菌数，大腸菌群の検査を行った結果，1 検体から大腸菌群が検出された。

(i) 浅漬の汚染実態調査

10 検体について大腸菌，腸炎ビブリオの検査を行った結果，すべて陰性であった。

(j) ナチュラルチーズの成分規格検査およびリステリア汚染実態調査

ナチュラルチーズ 5 検体についてリステリア・モノサイトゲネスの検査を行った結果，すべて成分規格の基準に適合した。また，サラダ 5 検体の検査ではリステリア・モノサイトゲネスは検出されなかった。

(k) 食鳥処理場の汚染実態調査

8カ所の食鳥処理場の食鳥および環境の拭き取り物 80 検体についてカンピロバクターの検査を行った結果，6 検体からカンピロバクター・ジェジュニが検出された。

e) 災害時活用井戸の水質検査

災害時に飲用井戸として活用できる候補井戸を見出すため，22 検体について一般細菌，大腸菌の検査を行った。7 検体が一般細菌，3 検体が大腸菌，3 検体が一般細菌および大腸菌の項目で水質

基準に適合しなかった。

f) 浴槽水等のレジオネラ属菌の検査

保健所から依頼のあった浴槽水等 31 検体について検査を行った。1 検体からレジオネラ・ニューモフィラ SG1 および SG9 ならびにレジオネラ・ミクダディが、1 検体からレジオネラ・ニューモフィラ SG1 およびその他のレジオネラ属菌が、1 検体からレジオネラ・ニューモフィラ SG9 が、1 検体からレジオネラ・ニューモフィラ SG8 が、1 検体からレジオネラ・ニューモフィラ SG8 およびレジオネラ・デューモフィが検出された。

g) 野良猫における抗 SFTS ウイルス抗体保有状況調査

県内における SFTS ウイルスの浸淫状況を調べるため、野良猫 215 匹について間接蛍光抗体法により血液中の抗 SFTS ウイルス抗体の保有状況を調べた。いずれも抗体は検出されなかった。

h) 公共用水域の水質調査

公共用水域における水質環境基準の達成状況を把握するため、県内の環境基準指定水域のうち 4 水域 7 地点の河川水 84 検体について、大腸菌の検査を行った。環境基準の類型が定められている 6 地点 72 検体の内、11 検体で基準を超過した。

(3) 依頼検査

令和 5 年度に実施した依頼検査は表 1-8 のとおりであった。

表 1-8. 依頼検査

種 別	検体数	検査項目	検査数
食 品	78	一般生菌数	78
		大腸菌群 (定性)	16
		大腸菌群 (定量)	0
		大腸菌	7
		真菌数	4
		耐熱菌	0
		黄色ブドウ球菌	14
		サルモネラ属菌	9
計			128

(4) GLP (業務管理基準) の実施

外部精度管理

厚生労働省が実施する令和 5 年度外部精度管理事業では、「新型コロナウイルスの次世代シーケ

ンシング (NGS) による遺伝子の解読・解析」, 「麻しん・風しんウイルスの核酸検出検査」および「コレラ菌の同定検査」に, 一般財団法人食品薬品安全センター 秦野研究所が実施する 2023 年度食品衛生外部精度管理調査では「一般細菌数測定検査」および「黄色ブドウ球菌定量検査」の項目に参加した。結果はいずれも良好であった。